

松坡先生と鎌倉の寺社

◎ **田辺松坡**（1862～1944 名は正守、字は子慎、称は新、

新之助、別号に菱花山人。）

唐津出身の**教育者・漢詩人**。東京大学予備門で学

んだ後、**共立学校**（後の**東京開成中学校**）**英語・地**

理教授となり、明治三十（1897）年から**校長**を務め

ました。同校校長在職中の三十六（1903）年、逗子

に**第二開成学校**（今日の**逗子開成中学校・高等学校**）

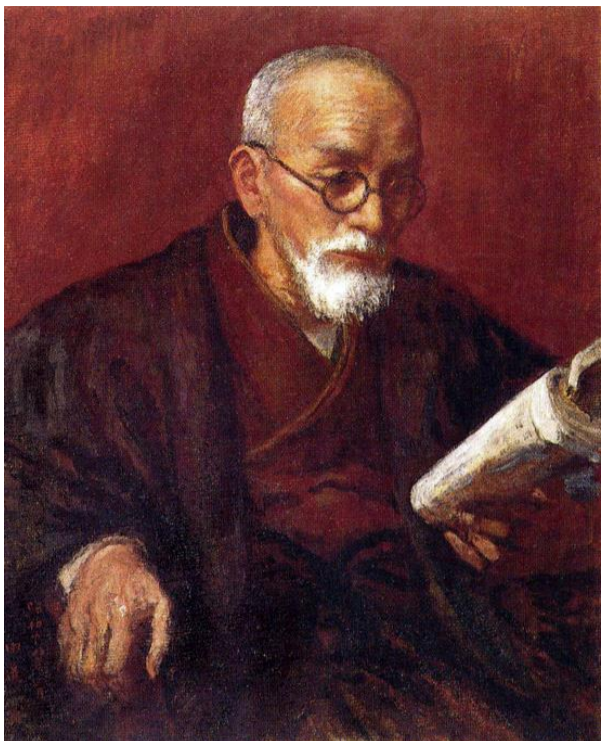
を、翌年**鎌倉に鎌倉女**

学校（今日の**鎌倉女学**

院中学校・高等学校）

を設立し校長となりま

した。



八十二歳の田辺松坡 田辺至画（1943）逗子開成所蔵

一方、**大沼枕山・岡本黄石**に漢詩を学び、明治十

七（1904）年から**晩翠吟社**に参加。二十代半ばで『日

本名家詩選』に作品が採録されたことで詩壇に颯爽

とデビューし、『毎日新聞』漢詩壇の撰者も務めるな

ど、**明治から昭和の漢詩壇**で活躍しました。

明治三十年代末に鎌倉に転居し、亡くなるまで四

十年近く鎌倉に住み、**鎌倉同人会**設立（「同人会」の

命名、設立趣意書の起草）に関わり、鎌倉市内の**旧**

蹟保存指導標の撰文にも携わりました。漢詩の講読

会を開き、自ら**漢詩会**（**松社**）を主宰するなど、清

雅な都市鎌倉の文化に大きく貢献した人物の一人で

もあります。

戦後、ご遺族より膨大な旧蔵書が鎌倉図書館に寄

贈され、今日「**松坡文庫**」と呼ばれています。

◎ 松坡先生と鎌倉の寺社

鎌倉への移居以降、松坡先生は漢詩を通じて鎌倉の僧侶などとの交友を盛んにし、寺社との関係を深めていきます。龍口寺で修行し、**大巧寺**に住した詩僧**片野玄貞(晃陽)**は松坡先生の詩の弟子でもあり、玄貞を通じて**妙本寺**の**島田日雅上人**、**光則寺**の**横山仁秀**との交友も生まれたと思われまます。松坡が主宰していた松社の月例詩会はしばしば妙本寺で開かれ、日雅上人の依頼で妙本寺の名木海棠を詠んだ漢詩も作られました。その詩が刻まれた碑が妙本寺にあります。一方、松坡先生と**釈宗演**、或いは**雲関和尚**との交友から臨濟宗僧侶との交友も生まれ、**建長寺正統院**の**國立正呉**、**寿福寺**の**内田智光**の求めに応じて**寿福寺**で漢詩講読会も開かれました。

鎌倉を代表する神社**鶴岡八幡宮**については、多くの作品でその神儼さを詠じています。鎌倉に住み、鎌倉の風景を多く描いた画家**大橋康邦**が描いた鎌倉の十二の名勝に漢詩を付した「**鎌倉十二景圖卷**」は松坡先生が跋を記し、陸軍大正南次郎の題字を得て図巻に装し、鶴岡八幡宮に献納されています。更に、八幡宮の夏の風物詩である**ぼんぼり祭**には昭和十三年(1938)年の第一回から漢詩を奉納しています。そのほか、**瑞泉寺**の**松堂和尚**には徧界一覽亭の再建を祝って詠じた詩が書かれた軸を贈呈し、**鎌倉宮**にある**松方正義**の書になる鎌倉宮碑建立当たって松坡先生は尽力しています。パネル展示では、**寿福寺**・**妙本寺**・**鶴岡八幡宮**を取り上げて紹介します。